

## 離島供給収支計算書

2020年4月 1日から  
2021年3月31日まで

(単位 百万円)

費用の部		収益の部	
項目	金額	項目	金額
営業費用	2,315	営業収益	1,999
水力発電費	48	電灯料(離島供給に係る収益に限り、基準託送供給料金に相当する額を除く。)	475
火力発電費	1,583	(燃料費調整分)	△0
新エネルギー等発電費	-	電力料(離島供給に係る収益に限り、基準託送供給料金に相当する額を除く。)	498
他社購入電源費	579	(燃料費調整分)	△0
非化石証書購入費	-	他社販売電源料	-
販売費	104	託送収益	970
		接続供給託送収益	970
		(離島ユニバーサルサービス費)	1,713
		(燃料費調整分)	△ 742
		電気事業雑収益	54
		遅収加算料金	-
		社内取引収益	-
		(離島ユニバーサルサービス費相当額)	-
		(燃料費調整分相当額)	-
営業利益(又は営業損失)	△ 315		
営業外費用	13	営業外収益	2
財務費用	10	財務収益	0
(株式交付費)	-	(預金利息)	-
(株式交付費償却)	-		
(社債発行費)	0	事業外収益	2
(社債発行費償却)	-	特別利益	-
事業外費用	2		
特別損失	-		
税引前離島部門当期純利益(又は税引前離島部門当期純損失)	△ 326		
法人税等	-		
離島部門当期純利益(又は離島部門当期純損失)	△ 326		

## (記載注意)

- 次に掲げる事項について、脚注として記載すること。
  - 離島供給収支計算書の作成に関する会計方針(重要なもの限り、その採用が原則とされているものを除く。)
  - 会計方針の変更をしたときは、その旨及びその変更による増減額(ただし、変更又は変更による影響が軽微であるときは、その旨又はその増減額の記載を要しない。)
  - 必要に応じ、費用及び収益の算定根拠その他送配電部門の収支の状態を正確に判断するために必要な事項
- 法人税等については、税引前離島部門当期純利益に法定実効税率を乗じて得た額を計上する。
- 該当すべき事項がないときは、表の作成又は記載を省略することができる。